

海を渡った “Japanese”



6月7日

「日本」の船出

～古代「日本」と東アジア世界の交流～

人文学部 准教授 三上 喜孝

6月10日 木

中国で禅を学んだ道元

人文学部 教授 松尾 剛次

6月14日 月

『ノー・ノー・ボーイ』

～太平洋戦争と日系アメリカ人～

人文学部 教授 佐藤 清人

6月17日 木

台湾ノスタルジアを作る

「日本語」「日本文化」装置

東北文教大学短期大学部 講師 加藤 大鶴

6月21日 月

日本人建築家が変わる世界の空間

人文学部 助手 宮野 元太郎

日 時：平成22年6月7日(月)～6月21日(月)
午後6時30分～8時10分

場 所：山形大学人文学部1階101教室

対 象：一般市民・大学生・高校生 定員30名

受 講 料：一般市民 2,000円

大学生・高校生は無料

募集期間：5月10日(月)～6月2日(水)

■お問い合わせ先

山形大学人文学部事務ユニット

電話：023-628-4203

E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

海を渡った “Japanese”



講座の概要

周りを海に囲まれた我々日本人にとって、「海外」とは文字通り海の「向こう」の未知の世界でした。しかし、歴史をふりかえれば、多くの日本人が果敢に海を渡り、海外の様々な文化を取り入れてきました。特に近代になると海外との交流はますます多様化し、「日本的なもの」が海外に認知され受容されていくことになります。

本講座では、このように海を渡ったさまざまな“Japanese (日本人・日本的なもの)”をキーワードに、我々が異文化を受容してきた歴史的背景、逆に海外で受容された“Japanese”の諸相を探ります。

各講座では、中国に渡った遣唐使・求法僧の実相、アメリカに渡った日系移民と日系移民文学の世界、台湾における日本の植民地支配と現在の日本ブーム、日本人デザイナー達がリードする現代建築の諸相といった多彩なテーマで専門の先生が講演します。

急激なグローバル化が進む今だからこそ、我々“Japanese”が世界とどう関わってきたか、考えてみませんか。

第1回目

6月7日

「日本」の船出～古代「日本」と東アジア世界の交流～

人文学部 准教授 三上 喜孝

西暦702年に中国の唐に向けて出発した遣唐使は、あるものを携えて唐の都、長安におもむきます。それは、「日本」という国号です。この時はじめて、「日本」という国号がデビューしました。まさしくそれは「日本」の船出でした。「日本」という国号が生まれる背景を、古代東アジア世界の政治情勢やさまざまな交流の歴史を通して探ります。



第2回目

6月10日

中国で禅を学んだ道元

人文学部 教授 松尾 剛次

道元は、貞応2(1223)年24歳で入宋し、天童山景德寺の如浄禅師について禅を学びました。その後、悟りを得た証明書をもらって、嘉禄元(1225)年に帰朝したのです。ここに、日本禅宗を代表する曹洞宗が始まったといえます。私は、昨年、中国天童山景德寺や道元ゆかりの阿育王寺などを訪問する機会を得ました。本講演では、現在のそれらの寺院の実情をスライドを使って紹介しつつ、道元仏教の新しさなどについて、お話しします。



第3回目

6月14日

『ノー・ノー・ボーイ』～太平洋戦争と日系アメリカ人～

人文学部 教授 佐藤 清人

太平洋戦争中、12万人に及ぶ日系アメリカ人は全米十カ所にある収容所へ強制的に転住させられました。また、そこで忠誠登録というアンケートによって、アメリカと日本のいずれかを選択するよう迫られました。この講座では、日系二世の小説家ジョン・オカダによって戦後発表された小説『ノー・ノー・ボーイ』を取り上げ、当時日系人が味わった苦難がいかなるものであったかを振り返ってみたいと思います。



第4回目

6月17日

台湾ノスタルジアを作る 「日本語」「日本文化」装置

東北文教大学短期大学部 講師 加藤 大鶴

台湾には今も日本語を「流暢に」話す人がいます。台湾の中国語には日本語由来の言葉が残っています。そこには、異なる民族を抱える状況への「便利な」共通語としての意味や、植民地支配の当然の結果としての意味とは別に、積極的に日本語を残そうとする人為性もみとめられます。言葉だけでなく、好意的に受け止められる日本の文化にも、そのような人為性をみとめられるのだとしたら、それを作り出しているのは一体何なのでしょう？



第5回目

6月21日

日本人建築家が変わる世界の空間

人文学部 助手 宮野 元太郎

現在、多くの日本人建築家たちが国境を超えて活躍しています。たとえば安藤忠雄や坂茂、妹島和世などスター・アーキテクトと呼ばれ、建築デザインの潮流を最前線で牽引しているひとと少なくありません。文化も自然環境も、日本とは大きく違うコンテキストに、日本人はどのような空間をつくり、どのようなインパクトを与えているのでしょうか？デザインを武器に、日本人が変わる“世界”を紹介します。



02	払 込 取 扱 票										通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号												
0 2 2 6 0 7 9 2 4 7 8												
金額												
2 0 0 0												
国立大学法人山形大学												
料金												
備考												
※「海を渡った“Japanese”」申込書 ※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。(人文学部) ○職業をお書きください。() ○年齢をお書きください。() ○今後の連絡の便宜のためにEメールアドレスをお持ちの方は ご記入ください。() ※個人情報の利用について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー等のご案内を本学からお送りする場合がございます。□承諾する □承諾しない (いずれかをチェック願います)												
おとこ (郵便番号)												
※おなまえ												
(電話番号)												
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙8982号)												
これより下部には何も記入しないでください。												

振替払込請求書兼受領証

口座番号	0 2 2 6 0 7	通常払込 料金加入 者負担
加入者名	国立大学法人山形大学	
金額	2 0 0 0	
おなまえ	様	
※ご依頼人	様	
料金	日 附 印	
備考		

この日から切り離してお出しください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。



この講座はゆとり都カレッジに参加しています。

- 募 集 人 員** ◆ 一般市民・大学生・高校生 30名
- 募 集 期 間** ◆ 5月10日(月)～6月2日(水)
- 受 講 料** ◆ 2,000円(大学生・高校生は無料)
- お申し込み方法** ◆ 下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。
通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講票をお送りします。
なお、大学生・高校生は、当日の受け付けも可能ですが、できるだけメールあるいは電話で事前にお申し込みください。
- お問い合わせ先** ◆ 〒990-8560
山形市小白川町1-4-12 山形大学人文学部事務ユニット
TEL: 023-628-4203
E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 会 場 案 内** ◆ 山形大学人文学部2階 205教室
大学正門を入って正面の建物です。
受付は人文学部正面玄関にて行います。
- そ の 他** ◆ 【公共交通機関ご利用のお願い】
現在、山形大学小白川キャンパスでは、駐車場が非常に手狭になっております。公開講座当日はできるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意
この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。